

ブルネイ政府と合弁海運会社設立

■ ECL、RORO 船・海運関連事業を提供

イースタン・カーライナー(=ECL、長手繁社長)は10日、香港の海運子会社「NETWORK CROSS TRADE LINE., LTD (NEXT)」がブルネイ政府の戦略的開発資本基金(ブルネイSDCファンド)と合弁海運会社「NEXT BAHTERA MARITIME SDN BHD」(NBM)を設立したと発表した。

現在NEXTが運航する多目的RORO船“NXT GENESIS”(1万8118総トン)をNBMが船主として所有すると共に、今後ブルネイで船舶代理店、フォワーディングなどの海運関連事業を提供する。

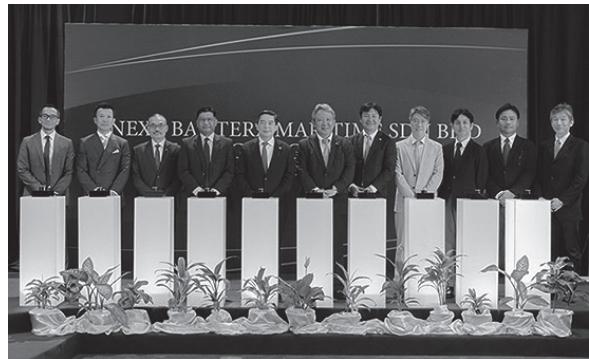
“NXT GENESIS”は、自動車や重機輸送に加えコンテナ、一般貨物などの多様な貨物に対応できる。同船は中国・韓国・フィリピン・インドネシア・マレーシアなどのアジア主要港とブルネイを定期的に結ぶ新たな海上輸送サービスを提供している。

NBMの設立に伴い、2月2日にブルネイのムアラ港にて設立記念式典が行われた。NEXTの親会社としてECLから長手繁社長、高山浩司副

社長らが出席。ブルネイ側は、SDCファンドの所有者であるブルネイ財務省からアミン財務大臣が主賓として参加し、シャムハリ運輸通信大臣やその他政府関係者を含め100人超が出席した。

式典での挨拶でアミン財務大臣は「海運は国家の生命線であり、未来を切り拓く“動脈”である。NBMの設立は単なる合弁企業ではなく、ブルネイの経済レジリエンスを高め、国際競争力を強化するための象徴的なプロジェクトと位置付けられる」とこの合弁事業に対する強い期待を示した。

広く海に面したブルネイは、国策として資源依存度を下げ、経済多様化を目指す戦略「Wawasan Brunei 2035」を掲げている。物流セクターの発展のためにはECL/



ブルネイのシャムハリ運輸通信大臣(左から4人目)、アミン財務大臣(同5人目)、ECLの長手社長(同6人目)、高山副社長(同7人目)、リヤンキムNEXTダイレクター(同8人目)



RORO船“NXT GENESIS”的前で記念撮影

NEXTが持つ海運のネットワークと運航ノウハウが必要と判断し、NBMの設立に至った。

MARKET ANALYSIS

船舶解撤市場レポート (2026年1月)

解撤価格、前年比で軒並み低下

2026年1月の船舶解撤(シップリサイクル)マーケットは、解撤用船舶の売買価格の気配値が主要解撤国(インド、バングラデシュ、パキスタン、トルコ)で主要船型いずれも25年1月の水準を下回った。

買取価格の水準はバングラデシュが最も高く、次いでパキスタン、

インド、トルコの順。キャッシャバイヤー大手ベストオアシスのレポートによると、1月のライトトン(軽荷排水トン、LDT)当たりの価格気配値は、インドではバルカーがケープサイズ・パナマックス390ドル(前年同期445ドル)、ハンディマックス400ドル(450ドル)、タンカーはVLCC390ドル(445ドル)、

その他415ドル(470ドル)、コンテナ船は450ドル(490ドル)。

バングラデシュとパキスタンはインドと比べて数十ドル高値の傾向にある。バングラデシュはケープ・パナマックス430ドル(460ドル)、ハンディマックス435ドル(460ドル)、VLCC440ドル(475ドル)、その他465ドル(500ドル)、コンテ